

OPINION

中部経済新聞

ナビゲーター

ウクライナへのロシア侵攻は続き、戦争が継続中です。欧州連合(EU)はウクライナ支持の立場を取るものの、ロシアとの直接対決は慎重に避けてきました。しかし最近ロシアは、ドローンを使ってポーランドやフィンランドなどEU・NATO加盟国に侵入し、その決意を試しています。米国の制裁や関与をもつてしても、ロシアの停戦や和平合意には至っていません。ロシアのウクライナ侵攻の直接的な結果として、米国に対抗する同盟国群が形成されま

日本への期待
世界各地からH
154

トランプ政権の余波

アメリカ・ハワイから(中)

止力と見なされていた世界各地で既得権を有します。トランプ政権下で米国は他国の保護に関心を失い、より孤立的になっていきます。国防省を「戦争省」と改称、外交政策を「戦争省」で決めること、決定がより攻撃的になることを示唆しましたが、最近アメリカへ麻薬を密輸しようとするベネズエラ船の破壊ではつきりました。トランプ政権が外国に宣戦布告したもうひとつの事例といえます。

この姿勢変化の強調のため、トランプ大統領とヘグセス国防長官は、前例のない全将官会議を開き、大統領の計画を説明し、同意を求めました。しかし将官たちは期待どおりの同意を示す兆候を見せませんでした。国連演説で、トランプ氏は多くの国々を「弱体」で「誠実な政府でない」と侮辱しましたが、米国は自分の指導力のもとで順調に進んでおり、国民も非常に満足していると述べました。

イーロン・マスクは、トランプ大統領を誕生させ、政府効率化省(別名DOGE)を設立した功績を自負します。

一夜にしてあらゆる面で変化します。州兵は「政治的」不満を鎮圧するためシカゴ、ロサンゼルス、ワシントンD.C.、ニューヨーク、ポートランドなどの国内複数都市への侵攻を命じられました。自国民に対するこの容赦のない軍事力行使は例を見ないものでした。各政党内の分裂やトランプ大統領の健康状態悪化も状況を複雑化させています。トランプ氏の予測不可能性により、将来を見通すことは事実上不可能となっているのです。

【ブライアン・モリキ、リム中産連】
(月曜日に掲載)